



小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人 5.4.24 城南会	代表者 福井部 久	山根 邦夫	法人・事業所の特徴	平成30年6月に開所。利用者や家族の要望、生活等を考慮し、小規模多機能型施設の特徴である、通い、宿泊、訪問等を組み合わせ、在宅生活が継続できるよう柔軟にサービスを提供できるよう心がけております。施設内は少人数の利点生かし、生活リハビリを中心に、個人にあった、活動を提供できるようにしています。又、地域にも必要とされる施設であるよう努力していきます。				
事業所名	小規模多機能型施設 はんたがわ	管理者 福井部 久	銘苅 孝司						

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	0人	1人	1人	1人	0人	2人	0人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所の毎月の勉強会を職員が講師となり行い、スキルアップに努める。	年間計画を作成し、職員が講師となり毎月、勉強会を行った。	・改善計画に取り組んでいる事は確認出来た。	ミーティングで改善計画を確認し、実行できるように実施方法を検討する。
B. 事業所のしつらえ・環境	包括支援センター繁多川と検討、協力し、通りに看板を設置する事が出来る。	はんたがわ敬老祭りを開催し、地域住民との交流を図ったが、看板設置までには至らなかった。	・はんたがわ地域敬老祭りのお知らせ配布などしたが、看板設置検討している場所の方は来所しなかった為、関係が薄く看板設置は出来ていない。 ・祭り以降、近隣住民がボランティアで皿洗いに来ている。又、花壇の草抜きもやってくれている。 ・玄関施錠されていないが、エスケープ予防の為、玄関にセンサーを設置している所もある。	地域住民との関係構築の為、はんたがわ地域敬老祭りを開催し、看板が設置できるよう努める。
C. 事業所と地域のかかわり	事業所での活動風景の写真を家族へ配布する。	月1回はんたがわよりを作成し、家族に配布する事が出来た。	・広報担当を作り、はんたがわよりを作成。家族に配布している。 ・包括繁多川の声かけで地域の行事参加も増えた。 ・以前利用していた家族が相談や近況報告に来ることがある。 ・地域見守り隊も継続し行っている。	繁多川公民館へ毎月はんたがわよりを配布する。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	管理者以外の職員が他事業所の運営推進会議に参加する。	職員交代で、他事業所の運営推進会議に参加した。	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣のグループホームの運営推進会議に職員が交換で参加している。視野を広げる為にも今後も職員に参加させてもらいたい。 ・地域見守り隊や新規利用者の訪問など包括支援センターと連携しながら行っている。 	年間通し、公民館で利用者と一緒にやし販売が継続し行える。
E. 運営推進会議を活かした取組み	感染対策を行い、利用者家族が多く参加できるように案内を配布する。	運営推進会議の案内を全家族に配布し、参加依頼を行った。	<ul style="list-style-type: none"> ・全家族に運営推進会議案内を配布したが、仕事などの理由で毎回参加される家族はいなかった。 ・参加されていた家族が利用終了の為、参加しなくなり家族の参加が少ない。 ・参加者が利用者の妻であったりすると、外部評価等の理解が難しく、評価のお願いが出来ない。 	事業所周辺の地域住民に運営推進会議案内を配布し、参加を促す。
F. 事業所の防災・災害対策	職員間で防災計画を見直し、避難場所、避難経路、対策等を確認知る。	避難経路、避難場所の話のみで、防災計画の見直しは出来ていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・他施設で不審者や迷惑電話などがあったので、マニュアルは作っておいた方が良い。 ・Jアラートが発令された際のシミュレーションもやっていた方が良いのでは？ 	感染症、非常災害時のBCPを完成させ職員で確認し理解を深める事が出来る。